

日時:平成24年6月7日(木)19:00~21:00

場所:佐土原総合支所2階研修室

第18回宮崎海岸市民談義所

議事次第

本日の流れ

1. 談義所の役割、談義のルール等
2. 第17回宮崎海岸市民談義所以降の状況報告
3. 今年度の工事、調査、委員会等のスケジュール(案)の説明
4. 談義 (今後の市民談義所の役割、進め方について②)

国土交通省 宮崎河川国道事務所

宮崎県

本日の流れ

1. 談義所の役割、談義のルール等
2. 第17回宮崎海岸市民談義所以降の状況報告
3. 今年度の工事、調査、委員会等のスケジュール(案)の説明
4. 談義（今後の市民談義所の役割、進め方について ②）

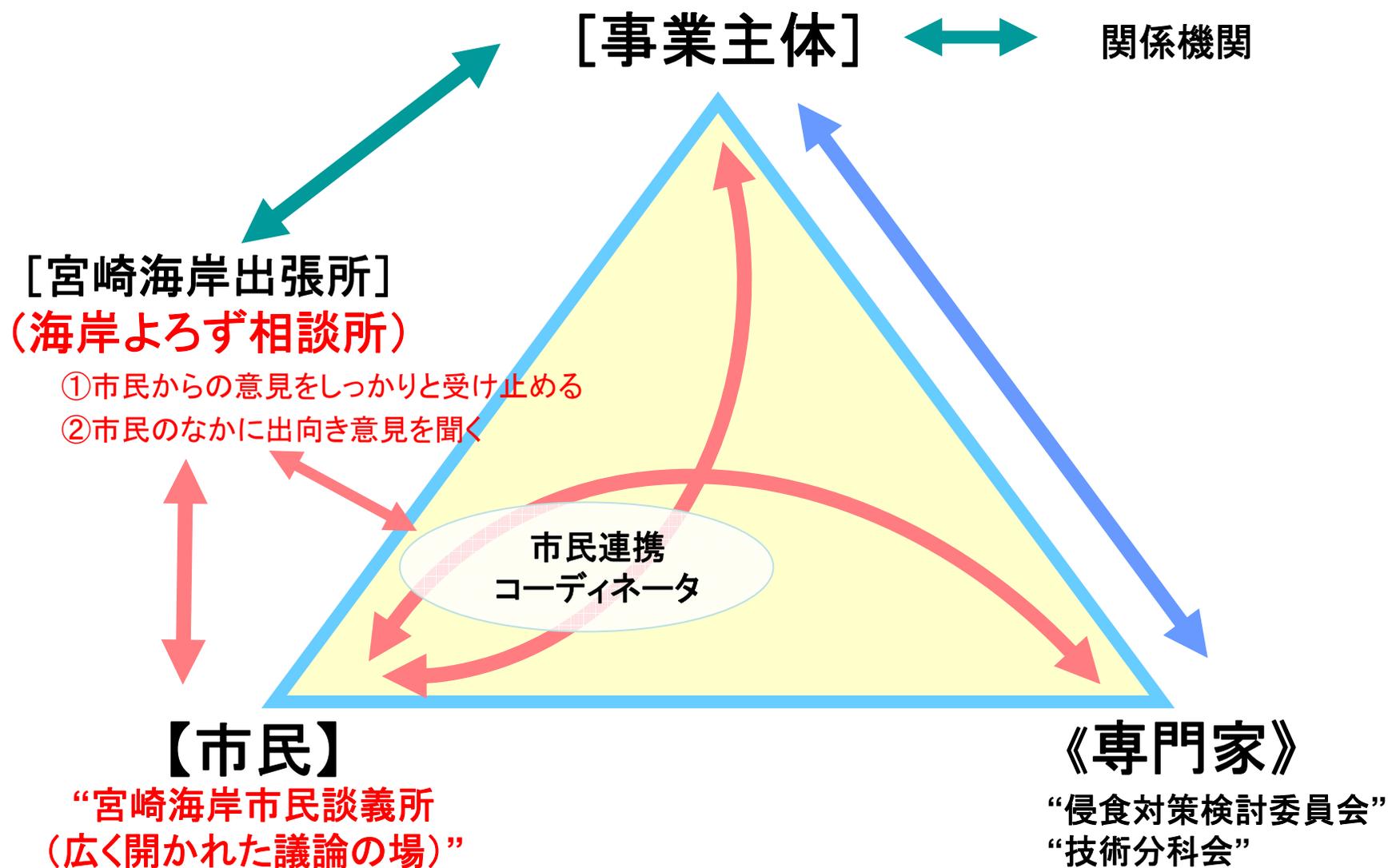
1. 談義所の役割、談義のルール等

談義所の役割等

- 1) 宮崎海岸トライアングル
- 2) 宮崎海岸ステップアップサイクル

1) 宮崎海岸トライアングル

行政・市民・専門家、三者一体となって考える



それぞれの役割と責任

事業主体

市民からの多様な意見を反映した案(複数)を専門家に提示し、検討を依頼する。また、専門家からの助言をもとに、**責任ある意思決定**をする。

専門家

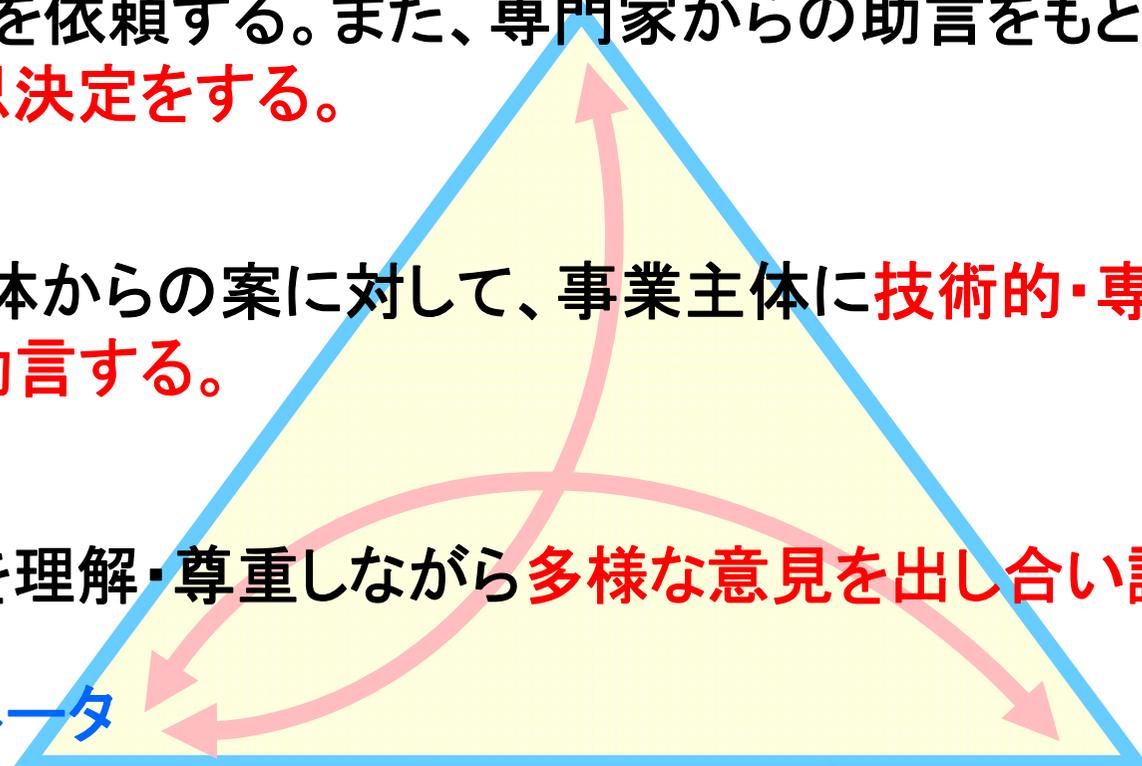
事業主体からの案に対して、事業主体に**技術的・専門的な立場**から助言する。

市民

お互いを理解・尊重しながら**多様な意見を出し合い議論を深める**。

コーディネータ

市民からの多様な意見を取りまとめ、事業主体に伝える。また、事業主体が専門家に正確に伝えているか、専門家がきちんと検討しているか**中立・公正な立場**からチェックする。



市民談義所の目的、役割と機能

【目的】

お互いを理解・尊重しながら多様な意見を出し合い議論を深める。

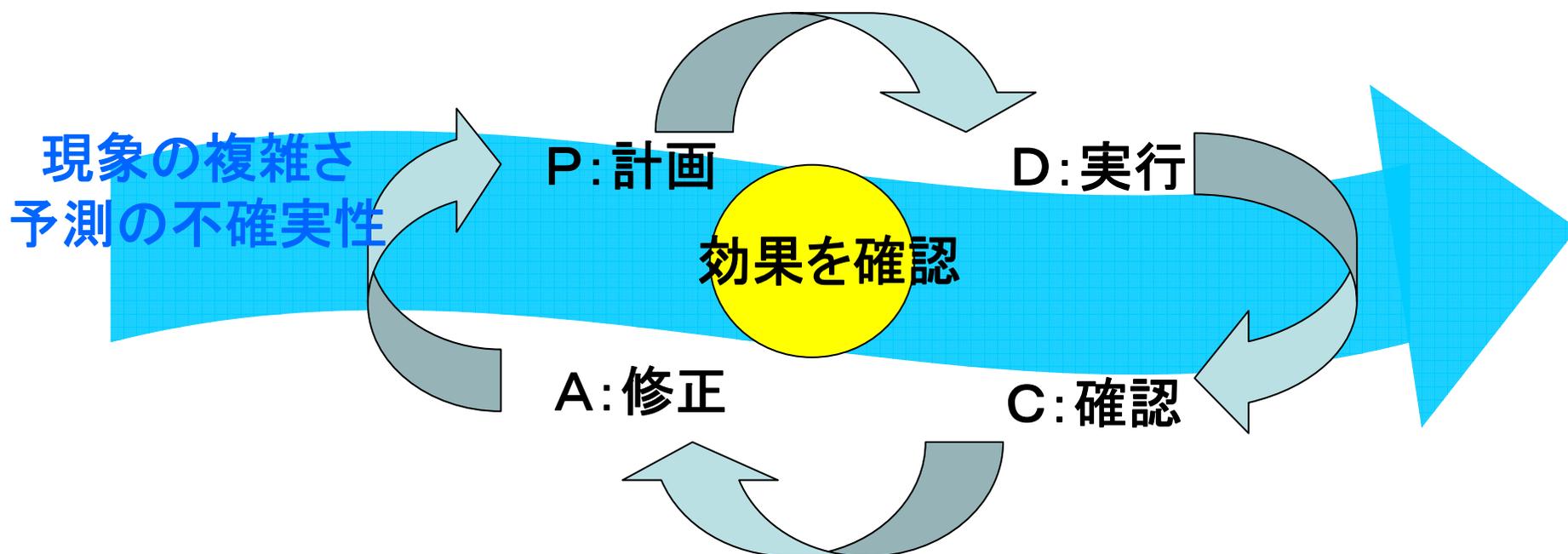
【役割と機能】

- ①多様な意見をお互いに認識し、知識・情報を共有する
- ②市民と行政のコミュニケーションを充実する
- ③市民がお互いに納得できる、手段を含めた方向性を見いだす

2) 宮崎海岸ステップアップサイクル

自然現象の複雑さと社会環境・自然環境の変化に対する未来予測の不確実性を踏まえ、

どのような方法をとればよいかを検討・実施し、その方法の効果を確認しながら、修正・改善を加えて、対策を着実に進めていきます。



談義のルール

1) 談義の留意事項

- 「〇〇(お住まい、所属)の〇〇(氏名)」を名のって発言する
- 発言時間2分/回(多くの意見をいただくための目安)
- 勉強会ルールを尊重

2) 勉強会のルール等について

○ルール

- ・誰かを悪者にするということはしない(前向き議論をするため)。
- ・糾弾というやり方はしない。
- ・参加者が自主的に企画する小さな勉強会等の情報を告知(チラシの配布など)は構わない(意見が異なるためこの場で配布してならないということはない)。

○司会者の役割

発言者(説明者や質問者)が誰かによらず、分かりやすくするために、説明が足りない等の要求や積極的に質問する事はある。しかし、いろんな事を解説することはない。

3) 多摩川ルール

多摩川流域では、平成4年に開催された三多摩東京編入100周年記念イベント【TAMAらいふ21】のとき、「湧水・崖線研究会」が開催され、多くの市民や行政が集った。このときの会議で、「3つの原則、7つのルール」が誕生した。

『3つの原則』

- ①自由な発言、②徹底した議論、③合意の形成

『7つのルール』

- ①参加者の見解は所属団体の公式見解としない
- ②特定個人・団体のつるし上げは行わない
- ③議論はフェアプレイの精神で行う
- ④議論を進めるにあたっては実証的なデータを尊重する
- ⑤問題の所在を明確にした上で合意を目指す
- ⑥現在係争中の問題は客観的な立場で事例として扱う
- ⑦プログラムづくりにあたっては長期的に取り扱うものと短期的に取り組むものを区別し実現可能な提言を目指す

2. 第17回宮崎海岸市民談義所以降の 状況報告

- (1) 第17回宮崎海岸市民談義所の報告
- (2) 平成24年度当初の高波浪による海岸の状況変化の報告

(1) 第17回宮崎海岸市民談義所の報告(1/2)

- 14 -

- 開催日：平成24年3月21日(水)
- 場所：佐土原総合支所 2階研修室
- 参加した市民：20名
- 議事概要：

①第16回宮崎海岸市民談義所以降の状況報告

- ・第16回宮崎海岸市民談義所の報告
- ・第10回宮崎海岸侵食対策検討委員会及び関連事項の報告
- ・平成23年台風被害の応急対策の進捗状況の報告

②談義(今後の市民談義所の役割、進め方について)

- ・グループ談義、グループ談義の成果発表、コーディネータのまとめ



(1) 第17回宮崎海岸市民談義所の報告(2/2)

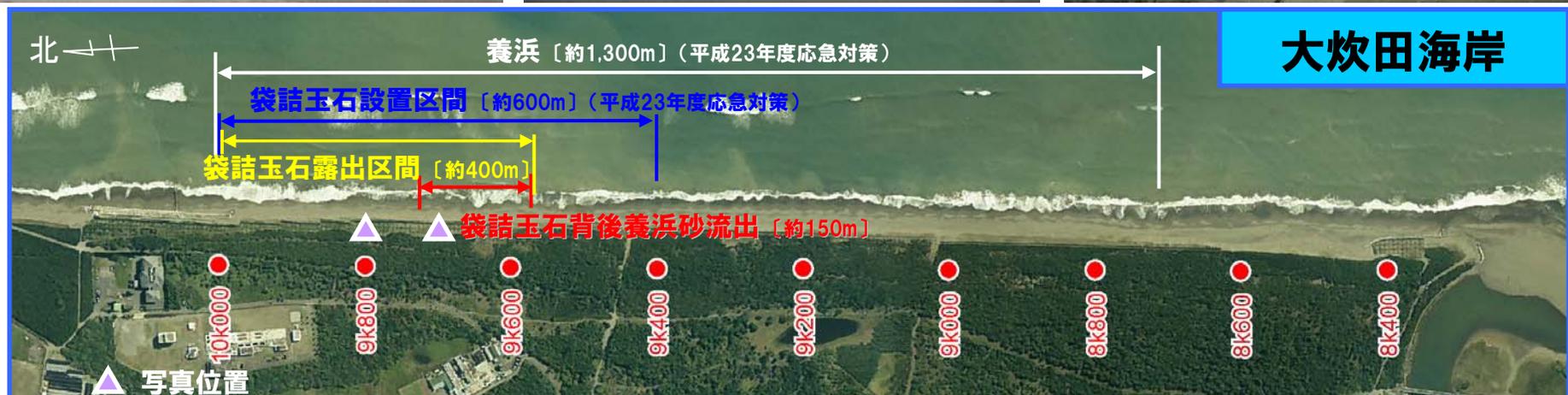
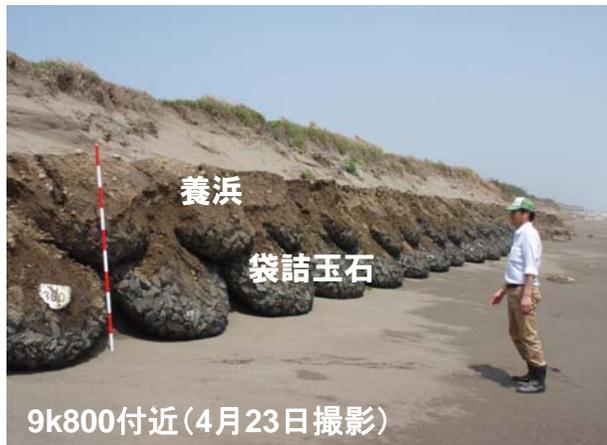
◆ 談義のまとめ

- ✚ グループ談義と結果発表により、以下のような様々な意見が得られた
- ✚ 今回の談義を踏まえ、改善点は真摯に受け止め、積極的に改善していくべき

分 類	市民からの意見
モニタリング調査と市民の関わり方について	<ul style="list-style-type: none"> → 安全の確保、砂浜の景観、環境、今後のモニタリング、利用者の満足に関わっていききたい → 特に安全については、自分が住んでいる場所や、すべての危険を想定して関わるべき → モニタリングについては、砂浜だけではなく水域・水中も含めて関わりを持ちたい → 食物連鎖等にもつながるため環境面でのモニタリングが必要
事業進捗のチェックについて	<ul style="list-style-type: none"> → 砂浜の回復を行政と市民が一体となってチェックし、見守っていきべき → 談義所を通じて抜けがないようにしっかりとチェックし、砂浜が復元するまで見届けていききたい → 早く工事を進めて欲しい、ウミガメや鳥などの環境も大事にするが、同時に住民の生命も大事である → 談義している間に現場では色々な現象が起こっており、それを放置しているわけではないが、工事など今やるべきことはすぐに実行して欲しい → 法律面からのチェック等も大事である → これまでの工事や宮崎港の建設についての反省を踏まえて先に進んで欲しい
海岸の利用や環境について	<ul style="list-style-type: none"> → 砂浜の景観、環境、利用者の満足に関わっていききたい → 昔の海岸を取り戻したい、後世のために砂浜にレクリエーションの場を残したい等があるが、砂浜を復元することですべてが可能となる → 工法が決まった以上、砂浜とともに人も海岸に戻るように、県も全力で携わり県と国が一体となることで、宮崎海岸がひとつのモデルになれば良い
談義所の進め方について	<ul style="list-style-type: none"> → 談義所のように意見を言える場で、皆と顔を合わせながら話せることが最も大事。是非談義所を継続して欲しい → ステップ4の実施段階に移行することで、談義の内容も方向性を変えていかないといけない → 工法は決まったが、今後も談義所での活動や発言が委員会等に活かされるように見守っていききたい → 談義所ルール等の前段説明が毎回繰り返されるため、本来の議論にもう少し時間をかけられないか → 皆でしっかり話し合っ、自分たちがこうしていききたいというテーマを決めて国や県に訴えることが大事 → 例えば砂浜の保全・回復と津波と一緒に議論しても方向性は定まらないため、砂浜の復元に付随した内容で進めることを皆で一度考えた方が良い → テーマごとに、海岸出張所等でミニ談義所を行うなどして議論を深めることはできないか → どうやって談義所を進めていくかというのをテーマのひとつとして、2時間使って皆で談義するというのはどうか

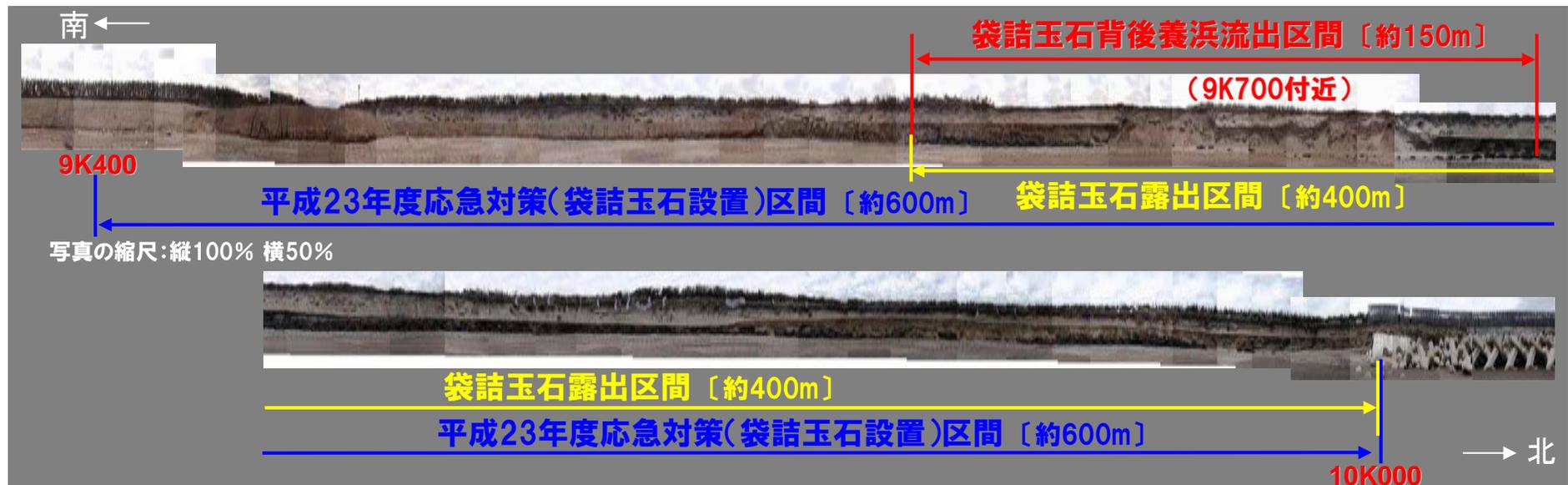
(2) 平成24年度当初の高波浪による海岸の状況変化の報告(1/2) - 16 -

- ✦ 昨年台風に伴う砂丘の侵食を受け、自然浜区間の動物園東、大炊田海岸では浜崖前面の養浜等による応急対策を実施したところであるが、平成24年4月22日の低気圧通過に伴う波浪(波浪警報かつ大潮)により、大炊田海岸北側の袋詰玉石設置区間約600mのうち、約400mで袋詰玉石前面の養浜が流出し、袋詰玉石の海側表面が露出した
- ✦ さらに、5月22日の低気圧通過に伴う波浪(波浪注意報かつ大潮)により、上記の約400mのうち、約150mで袋詰玉石が沈下したり、養浜がほぼ流出したりすることで砂丘の崩落に至った(これまで動物園東は特に影響なし)



(2) 平成24年度当初の高波浪による海岸の状況変化の報告(2/2) - 17 -

- ✚ このように、大炊田海岸の一部区間では砂丘の崩落に至ったものの、全体では応急対策により浜崖の基部が守られることで浜崖頂部高は維持されたため、効果は得られたといえる
- ✚ ただし、これらの現象を受け、昨年台風以降、大炊田海岸に対する波当たりが強くなっていることが改めて確認され、かつ大炊田海岸の工事用道路から北側の区間は浜幅も狭小となっており、大潮の満潮時には浜幅がほぼなくなることがあることも確認されている
- ✚ 上記の状況を踏まえると、養浜と袋詰玉石のみによる応急対策で現状を維持することは難しいことから、大炊田海岸北側の海底地形や波浪データ等の解析を進め、大炊田海岸で波当たりが強いという現象の原因を分析した上で、追加対策を検討、実施する



3. 今年度の工事、調査、委員会等の スケジュール(案)の説明



(1) 現状認識：技術検討のステージとステップ

現段階：「侵食対策の検討、計画」が終了しステージIII・ステップ4に入った

平成20年3月まで

平成23年12月まで

平成24年1月から

ステップ1

前提条件の整理

- 海岸の現状、侵食要因の整理
- 侵食メカニズムの整理

対策検討の考え方の整理

- 緊急的な取り組み、中長期的な取り組みについて整理

ステップ2

区域毎の特性の検討

- 区域分類の検討
- 区域毎の特性を検討・整理（防護・利用・環境等）

目標の設定

- 区域毎の特性を踏まえ、目標を設定

各施設等の機能の検討

- 実績のある施設（養浜含む）や、市民から提案のあった施設等について機能を検討、評価

ステップ3

侵食対策の検討、計画

- 養浜または、養浜と施設の組み合わせ（配置、規模）を検討、計画
- 実施可能な構造、素材を検討

ステップ4

侵食対策の実施

養浜
突堤
埋設護岸

対策の効果・影響を確認

試験養浜の実施 → 養浜の検討（養浜供給源、供給可能量、方法、費用等）

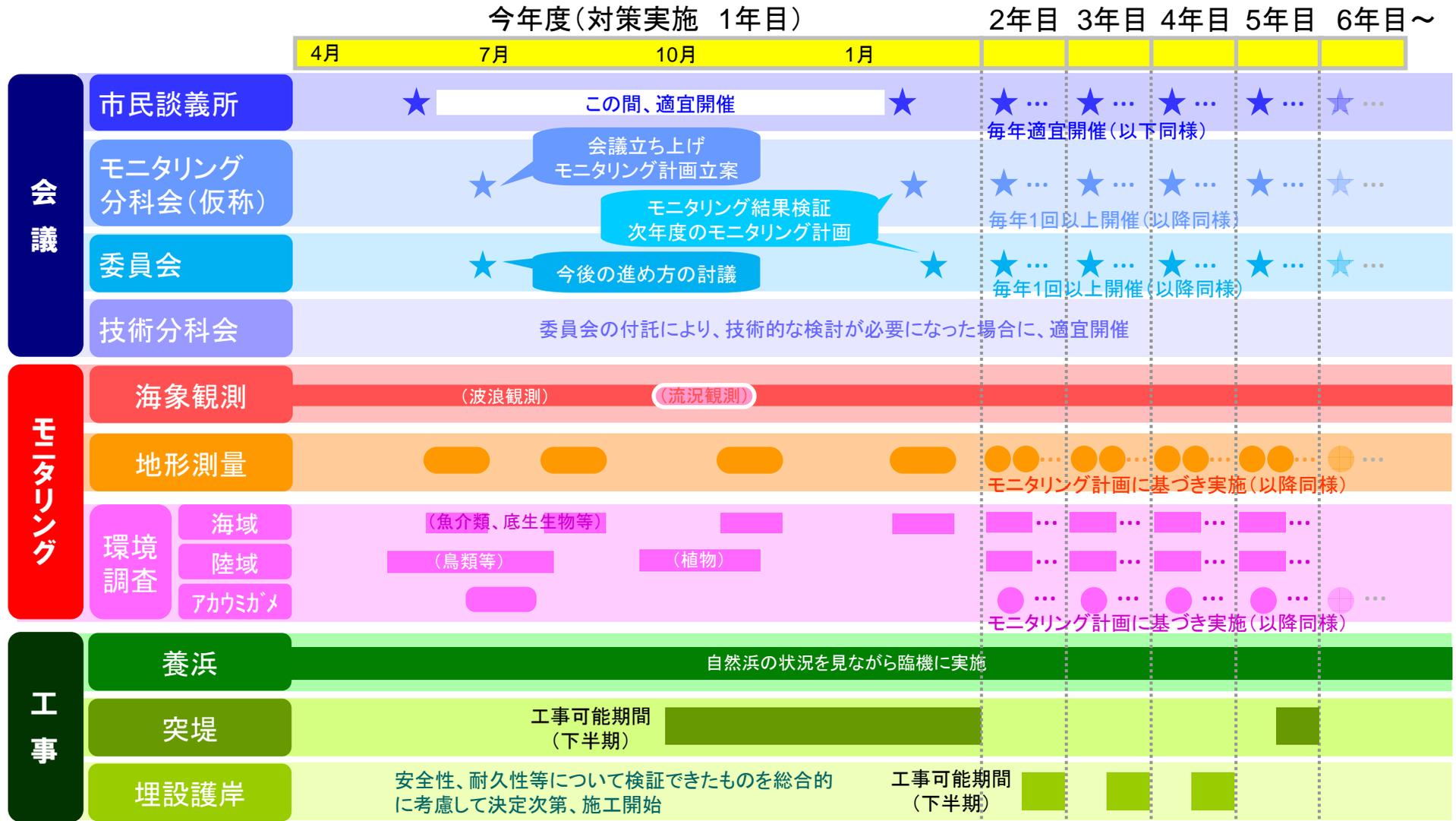
ステージI

ステージII

ステージIII

(2) 今年度の工事、調査、委員会等のスケジュール(案) -20-

今年度の予定(案)～今後の談義所、委員会、分科会の議論に応じ適宜変更の可能性



※モニタリングは、平成24年度の予定を表記している。工事は、第10回委員会における「侵食対策全体の施工順序の検討」に基づき表記している。

(3) モニタリング分科会(仮称)委員(案)

モニタリング分科会(仮称)の委員候補～現在調整中

【50音順、敬称略】

氏名	所属	分野
かんだ たけし 神田 猛	宮崎大学 農学部 附属フィールド科学教育研究センター 教授	魚類生理生態学
しばた ひさし 柴田 久	福岡大学 工学部 社会デザイン工学科 准教授	景観工学、 都市計画学
すだ ゆうすけ 須田 有輔	独立行政法人水産大学校 水産学研究科 教授	砂浜海岸の生態学、 魚類の分類・形態
つつみ ひろあき 堤 裕昭	熊本県立大学 環境共生学部 環境資源学科 教授	海洋生態学
なかしま よしと 中島 義人	希少野生動植物種保存推進委員	アカウミガメの生態
にし りゅういちろう 西 隆一郎	鹿児島大学 水産学部 水産学科 教授	海岸環境工学、 水産海洋学
むらかみ けいすけ 村上 啓介	宮崎大学 工学部 社会環境システム工学科 准教授	水工学、 海岸工学・防災技術

オブザーバー

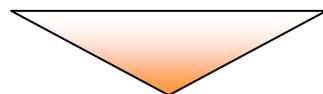
よしたけ てつおぶ 吉武 哲信	宮崎大学 工学部 社会環境システム工学科 准教授	都市計画、 市民連携コーディネータ
--------------------	-----------------------------	----------------------

4. 談義

今後の市民談義所の役割、進め方について②

前回の市民談義所

今後の市民談義所の役割、進め方についての談義が行われました（本資料p.14,15参照）



今回の市民談義所

前回の談義所で十分談義しきれなかった以下のようなテーマを、参加者の皆さんに選んでもらった上で、より具体的な掘り下げた談義を行います

＜前回の第17回談義所が出たテーマ＞

- ①モニタリング調査と市民の関わり方について
- ②事業進捗のチェックについて
- ③海岸の利用や環境について
- ④談義所の進め方について

1. 参加者の班分け(くじ引きによる)

2. 班ごとにテーマを設定しグループ談義

- ①モニタリング調査と市民の関わり方
- ②事業進捗のチェック
- ③海岸の利用や環境
- ④談義所の進め方

☆①は必須テーマ、②~④は各グループでテーマを選択

※付箋紙に意見を書いて模造紙に貼り、意見整理

3. 班ごとの成果発表と全体談義

4. 市民連携コーディネータのまとめ

1. モニタリング調査と市民の関わり方について

- ①モニタリング調査のやり方(内容、時期、…)について
- ②実施すべき調査について
- ③参加したい調査、参加の仕方について

2. 事業進捗のチェックについて

- ①チェックすべき事項(工事の進捗、…)について
- ②チェックの方法(市民談義所、地元説明会、チラシ回覧、HP、…)について
- ③チェックの頻度、タイミングについて

3. 海岸の利用や環境について

- ①海岸の利用(活用)方法について
- ②海岸利用に向けた整備(休憩施設、駐車場、…)について
- ③海岸の環境(貴重な生物の保護、環境美化、景観、…)について

4. 談義所の進め方について

- ①談義のテーマについて
- ②談義所の開催方法(場所、時間、頻度、…)について
- ③参加メンバー、広報のあり方等について